

JA全農は、①肥料②米穀③園芸④農薬⑤農機・段ボール⑥飼料⑦輸出——の各事業について、事業改革の具体策と年次計画を策定しました。全農自己改革の“新たな挑戦”を全8回シリーズで紹介します。

工場再編・銘柄集約し製造・供給を合理化

改革方向

価格競争力ある配合飼料の安定供給に向け、工場再編と銘柄の削減・見直しで国内の飼料製造・供給体制を合理化。海外での原料調達力を強化し、飼料の安定供給体制を増強する

事業環境

- 配合飼料の生産量は、約2400万ト。約30年で1割減少
- 国内115飼料工場のうち、43工場が建設後40年以上経過。老朽化対策が必要
- 畜産物のブランド化や発育段階別の栄養などに対応し、飼料銘柄が増加
- 世界の穀物需要が拡大。海外での飼料原料の調達は競争が激化

改革具体策

1 製造・供給体制の合理化

- 港湾・地域別の立地・老朽化の状況などを踏まえた、くみあい飼料工場の集約や他メーカーとの連携による飼料工場再編
 - ・JA西日本くみあい飼料(株)の新工場(岡山県倉敷市)が平成29年6月から稼働。一方で操業40年以上がたつ岡山県・水島、兵庫県・神戸、香川県・坂出の3工場を順次閉鎖し、集約
- 製造数量が月間10ト以下の小ロット銘柄(500銘柄)について、他銘柄に移行するなどして30年度までに2割を削減
- 原料割合が固定化した銘柄は、弾力化を提案。大豆かすとナタネかすなど、異なる原料でも栄養成分を指定することで代替できるようにし、原料高騰に備える

2 原料の調達力強化

- 全農グレイン(株)の船積能力を増強し、アジアなどへの穀物販売を拡大。ブラジルの穀物会社との提携を検討し、米国・ブラジルなど産地での原料調達力を強化
- 商社・商系メーカーなどとの飼料原料の共同購買・共同物流の実施
- 飼料原料の特性に応じた徹底比較による調達先の多様化

年次計画

項目	28年度	29年度	30年度	31年度～
1 製造・供給体制の合理化	西日本くみあい飼料倉敷新工場の建設	新工場稼働後、3工場を集約		
		商系メーカー等との受委託製造・工場再編の具体的協議の実施	受委託製造・工場再編の具体化	
		飼料銘柄の削減で生産者と意見交換・提案	取組継続、強化	
		原料割合の弾力化で生産者と意見交換・提案	取組継続、強化	
2 原料の調達力強化	全農グレインの船積能力増強	ブラジル穀物会社との提携検討	取組継続、強化	
		商社・商系メーカーなどとの共同購買・物流実施・拡大	取組継続、強化	
		調達先多様化の具体策検討、実施	取組継続、強化	